

# 令和5年度 学校評価アンケートの分析

## 1 学校評価アンケートの結果

アンケートの調査結果は、別添資料1～3のとおりです。

## 2 児童アンケート結果分析

- (1) 「①学校に来るのが楽しい91.5%」「②友達と仲よくしている97.4%」という質問に対して「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答している児童が90%を超えていることから、学校生活が充実している児童が多いと言えます。このことは、保護者アンケート「①子どもたちは、毎日楽しく学校生活を送っていると思う94.8%」「②子どもたちは、自分のことも友達のこと大切だと思っていると感じる98.5%」からも言えると考えます。
- (2) 「⑤学校行事や当番活動、係活動、委員会活動にしっかり取り組めた94.3%」「⑥学校の決まりや交通ルール、授業の始まりの時間などをしっかりと守ることができた92.4%」という結果から、自分の役割を果たそうと責任をもって学校生活を送っている児童が多いと考えます。このことは保護者アンケート「⑤子どもたちは、学校行事や委員会、係の活動に意欲的に取り組んでいると思う95.8%」「⑥子どもたちは、時間や学校のきまり、交通ルールなどを守って生活できていると思う94.0%」からも言えると考えます。
- (3) 「⑧体育の授業や長放課、部活動などで、進んで体を動かすことができた87.2%」という結果は昨年度結果より上昇しています。コロナ禍以前の生活に戻り、元気よく体を動かす機会が増えていると考えられます。
- (4) 「③自分にはよいところがあると思う81.5%」「⑨授業では友達の発言をよく聞き、自分の考えを進んで発言しようと努力できた76.0%」「⑩先生は、自分のよいところ、がんばったことを認めてくれる89.8%」は昨年度よりポイントが下がっています。どの項目でも、10%以上の子が自己肯定感や自己有用感を感じられず、自信がない状態にあると考えられます。コロナ禍以前の生活に戻りつつありますが、まだ、授業場面などで子ども同士の関わりや互いの認め合いが十分にもてていないことが一因であると考えます。子どもたちが互いに認め合い、自分に自信をもって活動できるよう、一人一人の子どもに目を配り、一人一人のよいところを認める支援を心がけていきます。
- (5) 「④自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしている89.3%」は昨年度よりわずかに下がっています。保護者アンケート「④子どもたちは、自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしていると思う85.9%」の結果も昨年度より、わずかに下がっています。しかし、教職員アンケート「④児童は、自分から進んであいさつをしたり、周りの人に「ありがとう」を伝えたりしている75.0%」は、昨年度の結果より大きく上昇しています。校内では、笑顔で相手の目を見て会話をしながらあいさつできる子どもが増えてきています。今後、校内だけでなく地域の中でも、すてきなあいさつができるように指導していきます。
- (6) 「⑦食まるファイブを意識するなどして、バランスのとれた食事を心がけることができた80.1%」「⑩授業は楽しく、内容がよく分かる89.8%」「⑫困ったときに相談できる先生がいる83.0%」の結果も昨年度より下がっています。子どもたちが興味をもって活動し、理解できるような授業づくり、子どもの話をじっくり聞く時間の確保ができるよう努めていきたいと思いをします。

## 3 保護者アンケート結果分析

- (1) 「⑦子どもたちは、栄養バランスを意識して、家庭の食事や給食を食べていると思う」「⑧子どもたちは、体育の授業や長放課、部活動などで、進んで体を動かしていると思う」以外の全ての項目において、「あてはまる」「ほぼあてはまる」という回答が85.0%以上であり、児童の学校生活におおむね満足していることがうかがえます。
- (2) 「⑩教職員は、授業において子どもたちにわかりやすい指導を行っていると思う94.8%」は昨年度と同程度の値となっており、学校の取組を保護者が肯定的に捉えていると考えられます。

- (3) 「⑩教職員は、子どものよいところ、努力したことを認めている95.3%」「⑫教職員は、子どもたちにとって安心して相談できる相手であると思う90.4%」と昨年度の結果より上昇しています。今後も、教員が安心して相談できる相手となるよう、対話を大切にしていきます。

#### 4 教職員アンケート結果分析

- (1) 「③児童は、自分にはよいところがあると思っていると感じる87.5%」「⑩児童のよいところ、がんばったことを認めている96.9%」の結果は、昨年度より上昇しています。子どもたちを認めるよう意識している教職員が増えていると考えられます。しかし、子どもたち自身の意識と少し離れていることも事実です。子どもたちが自分のよさを感じ、自己肯定感や自己有用感を高めることができよう、今後も支援していきます。
- (2) 「⑧児童の体力向上のために、体育の授業や長放課などで、体を動かす機会の確保に努めている80.6%」「⑨児童の話し合いの能力や思考力を高める指導を意識して授業をしている90.3%」の結果は、昨年度の結果より大きく下がっています。コロナ禍が明け、以前の活発な学校生活に戻そうと努めていますが、まだ予断を許さない状況であります。子どもの状況を把握し、子どもたちがより活発に活動できるような方法を考え、指導を進めていきたいと思えます。
- (3) 「⑦児童が食まるファイブを意識するなど、バランスのよい食生活をとるよう指導している67.7%」の結果は、昨年同様ポイントが低いです。自分の体づくりのために栄養バランスを考えて食べることができるよう、食育の機会を増やしていくよう心がけていきます。

#### 5 来年度に向けての改善策

- (1) 子どもたちが、学校だけでなく地域でも、自分から進んでさわやかなあいさつができるように指導していきます。
- (2) 子どもたちが、互いに認め合い、自分に自信をもって活動できるよう、一人一人の子どもに目を配り、一人一人のよいところを認める支援を心がけていきます。
- (3) 今後も、児童、保護者にとって安心して相談しやすい教員集団となるため、日頃から対話を大切に、よい関係を築き、相談しやすい雰囲気を醸成していきます。
- (4) 学校給食においてはできるだけ好き嫌いなく食べられるように支援したり、食育の機会を増やしていくよう心がけていきますので、家庭でも働きかけていただければと思います。

#### 6 第三者評価（学校運営協議会委員からの提言）

- (1) 道徳の授業で、自分の考えをタブレットに入力し、全員の考えを見ながら、「あの意見がいいと思う」と、仲間を認めている授業を見た。互いを認め合っていてよかったので、このような授業を増やしてほしい。
- (2) あいさつについては、地域でもよくあいさつできていると感じる。特に、中学年が元気よく、当たり前のようにあいさつしていて、気持ちがいい。
- (3) 部活動が廃止されていくため、地域でも、子どもたちが活動できる場を考えていかななくてはならない。地域や保護者ができることがあれば、協力していきたいので、今後も学校運営協議会などで話題になったことを地区の住民にも伝え、協力を依頼していきたい。